

## 会 議 録

|       |   |                                |
|-------|---|--------------------------------|
| 会 議 録 | 令和５年度 山陽小野田市高齢者保健福祉推進会議（第１回）  |                                |
| 開催日時  | 令和５年８月２４日（木）１４：００～１６：２０   |                                |
| 開催場所  | 保健センター 集団指導室  |                                |
| 出席者   | 石原克宏委員、伊藤武委員、井上恵子委員、上林雅樹委員、大塚美和子委員、川野広子委員、草田和枝委員、土井直子委員、中村聡委員、萩田勝彦委員、萬代聡子委員、堀田慎一郎委員、美濃康之委員、森川繁夫委員、和氣さち委員  |                                |
| 欠席者   | 江本尋美委員、坂井久美子委員、永富恵子委員、長谷亮佑委員、三原豊弘委員   | 委員数 ２０人<br>出席者数 １５人<br>欠席者数 ５人 |
| 事務局   | （福祉部高齢福祉課）<br>福祉部長 吉岡忠司、福祉部次長兼高齢福祉課長 尾山貴子、<br>高齢福祉課技監兼地域包括支援センター所長 荒川智美<br>高齢福祉課長補佐 竹内広明、高齢福祉課主査 篠原紀子、<br>介護保険係長 見田健治、<br>地域包括支援センター所長補佐 古谷直美、<br>高齢福祉係長 藤永一徳、高齢福祉係 山村咲綾  |                                |
| 会議次第  | <ol style="list-style-type: none"> <li>１ 部長あいさつ</li> <li>２ 会長・副会長選出</li> <li>３ 会長・副会長あいさつ</li> <li>４ 議事（審議事項） <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第９期山陽小野田市高齢者福祉計画の策定について</li> <li>(2) 調査結果の説明について <ol style="list-style-type: none"> <li>①介護人材実態調査、介護事業所に関するアンケート</li> <li>②介護予防・日常生活圏域ニーズ調査</li> <li>③在宅介護実態調査</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>５ その他</li> </ol> |                                |

| 会議要旨                            |   |
|---------------------------------|---|
| 開会<br>１ 福祉部長<br>あいさつ<br><br>事務局 | 福祉部長からあいさつを行った。<br><br>委員２０名の内、１１名の出席により、会議が成立したことを報告した。（途中から参加した委員がいたため、最終的に１５ |

|              |   |
|--------------|---|
|              | 名出席)  |
| 2 会長・副会長選出   | 事務局より推薦を求めたが、該当がなかったため、事務局案として会長に萩田委員、副会長に森川委員を提案し、委員から承認された。   |
| 3 会長・副会長あいさつ | 萩田会長及び森川副会長から就任のあいさつがあった。   |
| 4 議事         | 審議事項  |
| 《説明》         | 「(1)第9期山陽小野田市高齢者福祉計画の策定について」資料1について、事務局から説明を行った。  |
| 《質疑》         |   |
| 会長           | 団塊の世代は都市部に出て、地方に帰っていないことから、地方は都市部に比べて2025年問題はあまり大きくないと言われている。地方では高齢化の進行も早く進んでおり、介護人材の確保も問題となるが、本市の実態はどうか。                   |
| 事務局          | 都市部と地方の高齢化の進み方が異なるのは御指摘のとおり。本市の高齢化率は令和5年3月31日時点で34.8%となる。今後は高齢化の進展により後期高齢者が多くなるため、重度化防止が課題となると考えている。                        |
| 《説明》         | 「(2)①介護人材実態調査、介護事業所に関するアンケート」資料2、資料3について、事務局から説明を行った。<br>なお、本会議で提示する調査結果の概要と考察は現時点のものであり、本会議の意見等を基に修正を行い、最終版を公表予定であることを伝えた。 |
| 《質疑》         |   |
| 会長           | 訪問介護は事業所規模が小さいため、職員の負担が大きくなる。事業所ごとの職員数は調査しているか。   |
| 事務局          | 調査していない。  |
| 会長           | 正職員の休暇等のため、フォローする職員として非正規職員が多くなっていると思う。今後機会があれば調査してほしい。   |

|      |  |
|------|--|
| 会長   | 入所系施設の委員に伺いたいが、人員不足が原因で定員に満たない施設はあるか。  |
| 委員   | ショートステイも入所も定員を維持できている。   |
| 委員   | <p>3月に退職した職員が3名おり、ようやく8月に揃ってきた。人員は満たしているため、入所制限はないが、少ない人員になっていたため、職員の疲労が心配される。</p> <p>就職のきっかけとして、知人の紹介が多くなっているが、自分たちの施設では紹介会社を使っており、その費用負担が生じている。今回は12月に退職願があり、3月末まで期間があったが、なかなか見つからなかった。</p> <p>1人は知人の紹介で、残りは紹介会社を介したため、負担が大きかった。紹介会社を利用した理由を聞いたところ、市内にハローワークがなく、他市まで行く手間があったためという意見があった。</p> |
| 委員   | <p>調査結果では、介護の仕事は大変だが、やりがいや資格を活かせるといった回答もあり、介護を受ける側からすると非常に頼りがいがあると感じている。</p> <p>一方で、賃金が低いといった回答もあるが、標準の賃金はあるのか、また、職員の賃金を上げることは可能なのか教えてほしい。</p>   |
| 事務局  | 介護報酬は定められた基準があるため、一般企業のように企業努力で収入を増加させることは難しい。国も職員の処遇改善のため、昨年度は介護職員ベースアップ加算を創設するなど対策を講じている。  |
| 会長   | 一般の平均賃金と比べるとどうか不明だが、介護職員の賃金は処遇改善加算等もあり、以前よりは改善していると思う。ただ、介護の仕事は大変であり、見合った賃金になっているかは疑問である。  |
| 《説明》 | 「(2)②介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」資料4、資料6について、事務局から説明を行った。   |
| 《質疑》 |  |

|                       |   |
|-----------------------|---|
| <p>委員</p>             | <p>地域の行事等への参加者が少ないと感じている。また、参加者として参加したい人より、世話役として参加したい人が大きく減少している。老人クラブ等に携わっているが、女性より男性の参加者が少ないと感じている。男性に対して趣味などのきっかけづくりを啓発していくべきと考える。</p> <p>各行事の世話役も、今はまだ手伝ってくれる人がいるが、以前に比べると参加者は非常に少なくなっている。</p> <p>地域活動に参加することは介護予防にも繋がるため、老人クラブも会員を増加していかなければならない。</p> <p>行政も地域の活性化のため動いているが、この調査結果を見てどのように考えているか。</p> |
| <p>事務局</p>            | <p>地域活動への参加の重要性は理解している。今回は調査結果の説明であり、具体的な取組は今後協議していくこととしている。</p> <p>市としては、世話役として参加してもいいと答えた人が3割弱いることに注目している。これらの人にニーズを繋げていくための方策を、皆様と考えていきたい。</p>   |
| <p>副会長</p>            | <p>今年度の高齢者保健福祉実態調査は、対象年齢を「65歳以上」から「70歳以上」に引き上げている。就労状況も変わってきているため、従来の65歳以上を高齢者とする扱いを変えてもいいのではないか。</p>   |
| <p>事務局</p>            | <p>高齢者の定義は法令により異なっているのが実情となる。ニーズ調査は介護保険の1号被保険者を対象としており、1号被保険者は介護保険法で65歳以上とされているため、変更は難しい。</p>   |
| <p>《説明》</p>           | <p>「(2)③在宅介護実態調査」<br/>資料5、資料6について、事務局から説明を行った。</p>  |
| <p>《質疑》</p> <p>委員</p> | <p>老々介護の現場として、高齢の妻が夫を介護する事例をよく見ているが、介護される側は介護してくれるのが当たり前という認識があり、介護する妻は疲労困憊となる。</p> <p>ケアマネジャーも介護する側が楽になるようサービスを提示するが、本人が拒否をする。これを説得するには、身内ではどうしてもわがままや甘えがでてしまいサービスに繋がらない。</p>  |

|              |  |
|--------------|--|
| 事務局          | <p>冷静に状況を把握し、介護する側の手助けや助言をしてくれる第三者が介入できる仕組みがあるといいのではないかと。</p> <p>また、ケアマネジャーも本人の意思だけでなく、介護する家族に寄り添ってサービスを計画してほしい。</p> <p>本人の拒否により、サービスに繋がらないケースを多く見てきた。少しずつサービスを入れて慣れていってもらったり、本人が信頼している主治医等に助言をしてもらったりするなど、徐々に適切なサービスに繋げることができるよう組み立てている。様々な手段を講じて介護者の負担軽減を図り、老々介護の問題を減少させていきたい。</p> |
| 委員           | <p>本人を支援することも大切だが、介護する側を支える取組も大切と考える。これまでに比べ、介護する側の高齢化が進んでいる。介護する家族の身体的、精神的負担を軽減するため、誰の意見なら本人が受け入れてくれるのか、家族と相談しながら支援を進めている。支える家族が介護できなくなることが、ケアマネジャーにとっても悩むことになるので、介護支援専門員協会でも地区や県で研修を実施し、スキルアップを図っていきたい。</p>  |
| 6 その他<br>事務局 | <p>次回会議の予定と、委員の任期について説明を行った。</p>   |
| 閉会           |  |